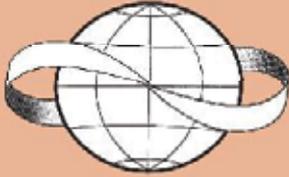


# ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第53号

商標登録第4882482号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志  
東京都東村山市久米川町1-16-18  
TEL: 042-395-9788  
FAX: 042-395-9787

## 資源物の入札について考える

行政機関では物品の購入、道路の補修から施設、又建物の建築などをする際に入札を行ない最適な価格での契約をしている。清掃行政においても一般廃棄物、ビン・カン・ペットボトルなどの収集事業を、入札に依って委託業者を決める自治体もある。リサイクルセンターに持ち込まれた古紙などの資源物も入札の対象になっている。行政主体の古紙回収と処理方法は

いくつがある。都内で行なっているルール1では、収集は委託業者、持込先は指定古紙問屋が多い。品川区は大井ストックヤードで処理し入札はして無い。豊島区では収集から処理まで一括入札である。多摩地区は、収集は委託業者だが、持込先をリサイクルセンターにしてプレス処理された古紙は入札したり、持込先の古紙問屋を入札している市もある。

国内製紙メーカーの古紙購入価格は公表しており日本全国同じである。ところが、競争入札となると、採算を度外視した価格で落札する業者がある。持込み先問屋の入札に至っては選別費も出ない赤字ではないかと想われる価格もある。

考える必要があるのは異常な価格が横行する事で、小さな地元業者による事業の存続を危うくする事である。行政による資源物回収が開始された時から関わってきた地元業者が、入札の勝敗だけで仕事を失う事は納得できない。

ビン・カン・ペットボトル・鉄、非鉄などは量も携わる業者も少なく、入札の影響は少ないが、古紙は携わる業者が非常に多い為、それだけ被害も大きくなる。特に古紙の入札は、他地区から参入の大手問屋が多く、長年に渡り回収に従事していた地元業者は回収業務の職を失い、古紙問屋は受け入れ時や選別に必要な地元市民の解雇、又、大幅な売上げ減による経営の悪化が必至となる。それだけ各自治体が行う行政回収は、定着してきたからである。

入札参加している古紙問屋のなかには「行政回収の入札による受け入れは、一度関わると前回の落札価格が基準となりさらに厳しい価格を入れなければならなくなり早く関わらない様にしないと経営がおかしくなる。」とも話している。同時に地元の業者は資源物を取り扱う広いヤードや設備・重機・各種車輛・従業員やパートなどの確保保持が困難になってしまう。

入札事業を実施する場合は、資源物の適正価格による入札の仕方など、地元業者の育成を考慮して、市民、行政、業者による話し合いの場を設ける必要があるのではないだろうか。地元へ貢献している業者が、僅かな差額で他地区業者に仕事を取られる。さらに入札価格差では判断できない莫大な損失をもたらし、二度と取り戻すことの出来ない地域財産の喪失となる。リーマンショックが起きた時、高値で落札した業者が資源物の引き取り拒否、又、契約価格の大幅な値下げを平然と行なったことは記憶に新しい。

当組合は、近隣5市との事業開始以来幾度となく不況の荒波を受けたが、問題なく事業遂行が出来た。それも、市民や行政からの安全信頼に依えられる事に重点をおいた契約をして頂いたからである。当然、買入れ価格は相場を重んじ最大限の努力をして決定している。さらに官公需適格組合として国の厳しい認可も取得している。

入札価格が市場に与える影響も考慮しないで、単に高価格だけを求めるのは、資源業界全体の疲弊に繋がりがかねない。又、地場産業の活性化を目指す行政の考えと矛盾するのではと思う。

吉浦高志

リサイクル適性 (A)

## 特別御寄稿

## 紺野さんおめでとう

株式会社 紙之新聞社  
編集長 杉山寿朗



毎年のことだが紙之新聞の紙面に紙業界や印刷業界など紙を扱って仕事をされている方で春と秋の褒章および叙勲の受章者を掲載している。今年も四月二十八日土曜日の日本経済新聞に「春の褒章受章者」、翌日の二十九日曜日には「春の叙勲受章者」の名前の一覧表が掲載されたのに関係者がいないか目を凝らして探した。

二十九日の二九面に一番上位から「旭日大綬章」に元経済企画庁長官で作家・経済評論家でもある堺屋太一（池口小太郎）さんの名前を筆頭に、「瑞宝大綬章」「旭日重光章」「瑞宝重光章」「旭日中綬章」「瑞宝中綬章」の順に政治家、行政官庁の役人、大学教授など学校関係者、裁判官や弁護士など法律関係者、大手企業の会長・社長などがズラリと並んでいた。

右隣の二八面には東京・神奈川地区などの受章者の名前が「旭日小綬章」「瑞宝小綬章」「旭日双光章」「瑞宝双光章」「旭日単光章」

「瑞宝単光章」の順に並んでいたが、その中の東京「旭日小綬章」受章者二六人の真ん中ごろ（一番目）に紺野武郎（七〇）元日本再生資源事業協同組合連合会長、東村山があった。

「紺野さん、やった」と思った。正直、我がことのように嬉しかった。東京都資源回収事業協同組合の方々をはじめ日資連に参加して「業界づくり」をして来られた全国の組合員の仲間の方々は、どんなに喜ばれていることだろうと想像できる。紺野さんをして国がリサイクル事業の現場の仕事を社会的に認めたことの証明だ。

東京「旭日小綬章」受章者二六人のうち最高齢者は八十三歳で元東北新社社長となっているから新聞関係の会社の方だろうか。その次に八十二歳の元日本出版取次協会会長もいらつしやる。八十歳の狂言師で有名な野村万作（野村二郎）さんもいらつしやる。

八十一歳を最高齢に元区議が八

人、七十七歳の元清瀬市長、七十歳と七十二歳の二人の元市議、その中で七十歳が一番若く七人おられ女優の白川加代子（深尾加代子）さんもいた。一つ年上の女優の岩下志麻（篠田志麻）さんも受章されているから、紺野さんの受章は胸を張れる堂々たる叙勲だ。

## 業界づくりはまず指導者

日資連は今年五月に第四〇回の通常総会を開き、その母体となる東資協は第六三回となる。関東資源回収組合連合会は今年九月に五九回目の通常総会となる。これほど歴史があるにも関わらず、回収業界は言わば社会の「縁の下」の力持ち的存在で、なかなか社会的承認を得られなかった。

しかし、紺野さん等を中心とした長年の社会的地位の向上と行政の認可を目指す業界基盤づくりの組合活動は、およそ三年前の平成二十年十二月十日になってやっと経済産業省からリサイクル団体としての本省認可を取得した。

一昨年の平成二十二年五月の日資連総会で会長を退任して相談役に就任し、同年九月の関資連総会で退任挨拶をされた紺野さんのことを、ここまで築き上げた「立役者」として紙之新聞のコラム（紙点）に「この人がいたからこそ今

が」と書かせていただいた。

後日、紺野さんにお会いした時に「過分なお言葉をいただき…」と謙遜されておられたけれども、決してそのようなお上手を言って持ち上げたつもりはなく書かせていただいた通り「業界の中で誰一人として異を唱える人はいない。それほど紺野氏の活躍、業績は今日の回収業界の礎となっている。言わば組合史に燦然と輝く功労者である」との思いは今も一点の曇りもない。

敢えて今一度その活躍を振り返ってみると、紺野さんの組合活動は昭和五十七年の東資協理事に始まり、平成二年から平成十年まで東資協副理事長四期八年。その間、平成五年から東多摩再生資源化事業協同組合理事長（現在も続投）。平成十年から平成十六年まで東資協理事長を三期六年。同時に関資連会長と日資連副会長も兼務し、日資連副会長は平成十八年まで四期八年。

そして、最後は日資連会長を平成十八年から平成二十二年まで二期四年。同年五月に退任するまで実に二八年間に亘って務め上げられた。その間、政府が推進する循環型社会形成基本法に匹敵するリサイクル団体としての認可を得る

ために、北海道から沖縄まで全国を飛び回り組合を組織化した。

業界の仕事を中身で社会的信頼を得るために組合活動として回収業界の自主認定制度の確立、リサイクル化証明書の発行などの政策を次々に打ち出し実現させて成果を残していった。その結果が本省認可を勝ち取るに至ったのは言うまでもない。

**革命・改革、そして改善**

回収業界の社会的地位の向上と社会的地位の確保までの紺野さんの集会での言葉はまさに革命家の言葉であった。何としても業界の仕事に付けないと生き甲斐や職業意識は出て来ないという必死の思いが聞こえた。

それが、自身の伴った「われわれの『居場所づくり』」の言葉に象徴された。目的や方向を見誤りそうな組合役員や挫けそうな組合員、そして、やる気のある若手のお尻を叩いて目的達成まで継続した力を出させ団決を訴え続けた。リサイクル団体として正式に本省認可を獲得すると、今度は逆に業界としてそこに軸足を置くことで国民や一般社会から見られていくという立場を強調し、自ら律した責任ある行動を取ることで恥ずかしくない団体に改革し仕上げていくことを呼びかけた。

さらに紺野さんは、平成十八年三月に設立された全てのリサイクル業界団体が加盟する東京都リサイクル事業協会の副会長に就任すると、地球規模で資源循環型社会を実現していくために、自分たちリサイクル業界が東京を中心に創り上げてきたやり方を、日本の国はもとより世界に広げるために改善を呼びかける高い意識にまで導いていた。

そのように培われた「理念」は例えば、昨年の平成二十三年九月に横浜で開催された関連連の第五八回通常総会で、日資連の武井大輔青年部長が、九月十七日から連休を使い関連連の岡崎竜二青年部長ら約三〇人で石巻市と女川町の出島に二班に分かれてボランティア活動に行くことと伝えたことに表れている。

また、通常総会の最後に神奈川県資源回収商業協同組合の重成里夢青年部長が読み上げた「大会宣言」にも端的に受け継がれていることが分かる。紺野さんの責任ある行動のDNAが見事に引き継がれていたのだから、その全文を紹介させていた。◇

社会貢献ビジネスあるいは公益ビジネスと表現できる

**「大会宣言」**

協同組合は私益、共益、公益という組織の目的分類において相互

扶助組織であり共益を追求する組織である。これまで組合は共益の活動に取り組み、高い実績をあげ、またリサイクル・環境問題に関する啓発活動・社会貢献活動など公益の実現でも実績をあげている。

現代社会は行政が公益を独占する時代ではなく、多様な主体が公益の実現を担う共益の時代になってきている。このような時代状況の中、われわれが構築してきた再生資源回収システムは循環型社会・持続可能な社会の実現という公益を実現することに深く関与している。その意味では再生資源業を社会貢献ビジネス、あるいは公益ビジネスと表現することが可能だろう。

◇ これからの再生資源業界は公共サービスの担い手としての真価が問われており、公益ビジネスとしての社会的使命に位置付けられる必要がある。われわれ関連連はこれまでの貴重な実績を活かし、社会貢献ビジネス、そして公益ビジネスをキーワードに新たな付加価値を創造していかねばならない。

世代を超えて後輩たちは紺野さん等先輩たちが厳しい条件下で築き上げてきた考え、理念、思想を見事に引き継ぎ、咀嚼し、さらに研究を重ねて深め、進化させ、言葉を変えてきつちり表現すると

ころまで身に付けていることがはつきり見て取れる。

これを見てみると、再生資源業界は日本の次世代の社会的創造の担い手として大いに期待できると確信することができる。

**御 礼**



謹啓 新緑の候皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます

さて私こと 此の度 はからずも平成二十四年春の叙勲に際しまして旭日小綬章受賞の榮に浴することとなりました 勲記・勲章の伝達式および皇居参内拜謁の榮は、五月三十一日に賜われることにあいなりました

これも偏に長年にわたって皆様より頂きましたご指導ご厚情の賜と深く感謝申し上げます次第でございます

今後はこの榮譽に恥じることのないよう一層精進いたす所存でございます

何卒従前と変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます

略儀ながら謹んで御礼の挨拶とさせていただきます

平成二十四年五月吉日 謹白  
紺野武郎

# 大和板紙株式会社視察

去る平成二十四年三月三十日（金）午前十時三十分より、大阪府柏原市の大和板紙株式会社を見学させて頂いた。

まず最初に、会社に到着後、北村光雄代表取締役会長をはじめ、社員の皆様一同で、お出迎えをして頂き、その後、北村会長が、会社本部棟の屋上に案内して下さり、そこからの三六〇度の展望を説明して頂いた。

続いて、会議室に案内され、北村会長と、伊藤幹太常務取締役工場長より、会社の概要と、設備機器（特に抄造機の一号機Ⅱ円網多筒式・生産能力七五t/日、二号機Ⅱ円網多筒式・生産能力九〇t/日を中心）、及び古紙から再生板紙が出来上がる過程等について説明して頂き、会社のPRビデオも視聴させて頂いた。

次に、実際の工場に案内され、産業古紙等の回収から板紙への再生と再生商品（主に商品のパッケージや名刺・ノートの表紙・カレンダー等）への加工や製紙会社等への出荷までを一体化した製造システム、環境に配慮した工場設備を見学した。



このような、「循環型リサイクル」を目指した最先端の工場を見学させて頂き、大変勉強になりました。今回、当組合の視察研修会に多大なるご協力を頂いた、大和板紙株式会社北村会長はじめ社員の皆様に、心より感謝申し上げます。また、後日、大和板紙株式会社ホームページに、当組合の視察の様子（写真・コメント付）を掲載して頂き、組合員一同、大変喜んでおります。

柿崎

## 東多摩再資源化事業協同組合の方々が工場見学に来られました。 2012/03/30

東京の東多摩から遠路はるばる大和板紙までお越しいただきました。なんと、朝4時に起きたそうです。工場見学に来ていただいたこと、頭が下がる思いです。東多摩再資源化事業協同組合は、古紙を始め、古布、鉄くず、非鉄金属、ピン、カンなど要らなくなったものを都市資源と考え、積極的にリサイクルに取り組んでおられます。特に、バルバーでの溶解後のフィルムなどの取り出しでは、興味深くご覧いただきました。



抄造できたばかりの板紙の断面の説明に熱心に聴いていただいています。

### 大和板紙株式会社

#### を見学して

当社が大変手を掛けてリサイクルしている難処理古紙、又、事業系廃棄物としている禁忌品のリサイクルをみて驚きました。水は、ろ過して再使用。パレットは自社製品のサイズに合わせて作り直して再使用。木切れはチップにして再使用。製紙スラッジは固形燃料に。ほとんど全てがリサイクルされていた。

当社はどうか、ラップ、ビニール紐、ビニール袋、PPバンドは固形燃料(年間約一〇トン)にリサイクルしている程度だ。事業系廃棄物として処理している禁忌品は年間約9トンにもなる。近隣に大和板紙株式会社さんがあれば難処理古紙、事業系廃棄物はリサイクルできる。

又、社員の挨拶などしつかりと成されていた。会社の社員教育も当社としては見習わなくてはならない。

大和板紙株式会社を見学できて、大変勉強になりました。会長さん、社員の皆様にはお忙しいにも関わらず、丁寧にご説明して頂き、本当に有り難うございました。

原口

### 大和板紙(株)視察

大和板紙(株)さんは、従来再生資源として利用できない処理困難な紙「禁忌品」のリサイクルに尽力されています。

通常、禁忌品が少しでも入ってしまいますと、リサイクルされた製品が使えなくなってしまうし、しかし同じものがたくさん集まれば、リサイクルの輪に入ることができるとのことです。

また、単にリサイクルするだけではなく、排出された企業に、自社で加工した紙を使った製品をブレゼンするなど非常に興味深い事業をされています。

今回の視察で、改めて、古紙の分別の大切さを実感しました。家庭から出る禁忌品は、企業から排出される事業系の古紙とは違い、種類が豊富なため、選別は機械では行えず、人の手で行わなければなりません。

古紙を再生利用した製品にはグリーンマークが表示されています。リサイクル製品を積極的に使ってくださいませう。

視察を快諾してくださった北村会長、大和板紙(株)の社員の皆様に厚く御礼申し上げます。

水野(敬)

### 大和板紙を見学して

三月末の組合の研修旅行で大和板紙株式会社を見学させて頂いた。同社の北村会長と当組合の紺野理事長とは、古紙センターで毎月一緒させて頂いている関係で、そのようなご縁もあり見学をさせて頂くことになった。

まず、びっくりしたのは、工場の入り口で社員の皆様が仕事の手を一旦止めて整列してお出迎えをして頂いたことである。それも一人二人ではない。さらに、東多摩再資協一行の歓迎ボードまで立てられてあった。事務所に通された際も、事務員の皆様がデスクワークの手を止め、起立して迎えて下さった。お仕事上の週末金曜日にお邪魔したのに、素晴らしい社員教育がなされているのだと感じた。

その後、北村会長自ら事務棟の屋上から工場の全体や近隣の地形などについて説明して頂いた。会議室に移動後、北村会長と当組合の紺野理事長のご挨拶の後、担当の社員の方がプロジェクトを用いて、大和板紙(株)の会社概要や製紙工程、リサイクルフローについて説明して頂いた。一度は廃業した製紙会社を再興し、また、製紙メーカーとしていち早く産業

廃棄物の最終処分場の許可を取得し、難処理古紙受け入れや機密文書の溶解処理に着手した点など、北村会長のバイタリティや先見性に感服した。

そして、2手にわかれて、工場内へ移動し、古紙がパルパーに入されるところから、抄紙機を経て最終的に板紙として製品化されるまでを順を追って見学した。製紙メーカーに見学に向っても、なかなかすぐ目の前で紙が溶けていくところや抄いている工程を見させて頂ける機会はなかった。興味深く拝見させて頂いた。パンフレットやパネル展示などで製紙工程の流れは大体理解していたものの、やはり、紙のにおいを感じ、足元に紙の溶けた水の水はねを受けながら間近で見ると、迫力もあるし、自分たちの出荷した製紙原料がこうして処理されているという実感がわいてくる。

ビニール引きの紙、アルミ付きパックなど、こんな紙ばかりでちやんとした紙が出来るのかという疑問も、ビニールなどは残差として排出(RPFの原料になる)され、最終的にきれいな板紙になるのを確認して納得できた。

北村会長はじめ、大和板紙(株)の皆様から感謝を申し上げ、見学の報告とさせて頂く。

紺野(琢)

## 《清瀬市より依頼された》

# 持ち去りパトロール・実施報告書

### 実施日時

- ①平成23年12月13日(火) 午前6時～9時
- ②平成23年12月16日(金) 午前6時～9時
- ③平成24年1月17日(火) 午前6時～9時
- ④平成24年2月24日(金) 午前6時～9時

### 実施員数

ガードマン1名 組合員5名 計6名  
 パトロール車両：警備会社のパトロールカー1台、  
 組合軽ワゴン2台 計3台

### 実施区域

- ①・③ 清瀬市内火曜日資源回収エリア全域
- ②・④ 清瀬市内金曜日資源回収エリア全域

### 結果報告

**【持ち去り確認車両】** 7台(内・複数回確認車両4台)  
**【推定：持ち去量は、少なくとも十数トン】**

### 【状況報告】

各日とも持ち去り車両を発見、ビデオにて現場を収録しました。朝6時台は資源物もあまり出ていないので、確認できませんでしたが、7時台になると、置き場にも資源物がたまり始め、持ち去り車両も動き始めました。問題の車両も確認しました。トラックに最初からあおりを立てて目隠しをしているケースが多いですが、スモークを貼ったワンボックスカーなども最近が増えています。今回のパトロールでは、同じ車両が定期的に確認されました。携帯電話で連携しながら持ち去りを行っている車両があり、組織的に行われているケースであると確認しました。追跡を開始すると、一度は持ち去りを止め、通勤通学時間の市道何度も右左折を繰り返しながら逃走していきました。途中、交通法規を無視(信号無視、一時停止不停止、一方通行逆走、スクールゾーン等進入禁止道路通行など)したり、自転車や歩行者と接触しそうなケースも見られました。危険なので、必要以上の追跡は止めました。中には、自転車で本だけをあさっているケースもありました。

紺野(琢)



典型的な持ち去り車両。持ち去り車は、通学時間の市道を暴走するなど危険なことも多い。



2人組による持ち去り車



ワンボックスカーによる持ち去りも多い

第十九回TAMA  
とことん討論会開催

平成24年1月29日多摩市ア  
ウラホールにて第十九回TAMA  
とことん討論会が開催された。開  
会に先立ち、開催地を代表して後  
藤泰久様（多摩市副市長）と来賓  
を代表して金子亨様（東京都環境  
局廃棄物対策部資源推進循環課  
長）より挨拶があり、会がスター  
トした。



まずリレー講演を「古紙リサイ  
クルの基礎」として(株)資源新報社  
専務取締役大田原覚様より業界マ  
スコミの視点から古紙リサイクル



の概要が解りやすく説明された。  
続いて市民の視点から「多摩地域  
の古紙リサイクルの実態」を東  
京・多摩リサイクル市民連邦理事  
池田干城様から具体的なデータ  
を下に古紙回収の実態アンケート  
の解説が行われた。

続いて各地区の具体的な実例を  
荒川区環境局清掃部清掃リサイク  
ル課課長平野興一様・東大和市湖  
南自治会会長楯谷昭夫様・調布市  
緑ヶ丘自治会長森田利雄様、最後  
に「再資源化事業者の立場から」多  
摩市リサイクル協同組合理事長  
佐々木義春様の4名より講演が行  
われた。最後に本日登壇された6  
名の方々をパネラーにパネルディ  
スカッションが行われ、参加者と  
の質疑応答があった。参加者から

の質問が多かったのは、古紙の分  
別問題で、キンキ品などのさらな  
るPRが必要であると感じた。

「5年後の古紙業界を考える」  
シンポジウム開催

2月21日、日暮里のホテルラ

ングウッドにて関東製紙原料直納  
商工組合の主催で「5年後古紙業  
界を考える」をテーマにシンポジ  
ウムが300名以上の参加を得て  
盛大に開催された。業界の若手が  
中心となって企画・運営を行うと  
事前に聞いていたので非常に期待  
感を持って参加させていただいた。  
まず会に先立って公益財団法

人・古紙再生促進センター（以下  
古紙センター）・前専務理事・鈴木  
節夫氏による基調講演「古紙余剰  
時代の時代からこれまでの歩み」  
が行われた。古紙リサイクルの歴  
史とともに今後の課題も含めてお  
話いただいた。

基調講演に引き続きコーディネ  
ーターに梶野隆史氏（関東製紙原  
料直納商工組合副理事長・経営革  
新委員長）、パネリストに岡村光二  
氏（古紙センター関東地区委員長）

早速明生氏（株）JOP取締役会長）  
高橋征史氏（社）鉄リサイクル工  
業会元理事）寺松一寿氏（株）寺  
松商店専務取締役）栗原護氏（栗  
原紙材（株）取締役開発営業部部  
長）の5名を迎えパネルディスカ  
ッションが行われた。各々の専門  
分野からの私見が話されたが、具  
体的な提言は余り聞かれず残念だ  
った。

基調講演の鈴木氏のお話で印象  
に残った部分を紹介させていただ  
きたいと思う。「地産地消という  
言葉はよく使われるが、古紙にお  
いても地産地消の原点に立ち返っ  
て考えてみる必要があるのではな  
いか。排出・回収される地域に近  
いところで納入され利用されるこ  
とが一番よいと思う。回収側の皆  
さんは品質を安定させて、安定し  
た販売体制を構築すれば、無駄な  
競争や無駄な輸送コストをかけな  
くて済むはずだ。これは取りも直  
さず、製紙メーカーにもメリット  
がある。行政回収の中には最近、  
価格を優先した入札制を導入して  
いるところもあるが、やはり地産  
地消を優先させるべきではないか  
と思う。

福田

コラム

かみかみつーおー

二〇〇九年に赤坂の迎賓館が指定されるまでは、東京都唯一の国宝建造物だった建造物が東村山にあるのをご存知でしょうか？

そう、野口町にある、正福寺の千駄地藏堂です。正福寺は、鎌倉時代中期に鎌倉の建長寺僧石溪心の開山により創建されたと伝えられ、開基については執権北条時頼とする説と北条時宗とする説があります。境内にある地藏堂は、室町時代の応永一四年（一四〇七年）に建立され、建造物として国宝の指定を受けています。

武家文化の影響を受け、大きく反りあがった屋根は国宝と呼ぶにふさわしい威厳を放っています。正福寺の本殿が火難に遭った時もこの地藏堂だけは焼けずに残ったそうです。どこからか集まってきた沢蟹の泡によって火から守られたという伝説があるそうです。また、千駄地藏堂のお堂の中には、ご開帳の時しか入ることはできませんが、中には借り仏信仰（地藏堂からお地藏様をお借りして、病気が平癒したら一体追加してお戻しする）により、たくさんの小さなお地藏様がご本尊の両脇の棚に並べられています。

毎年一月三日（文化の日）に開催される地藏まつりの日には、地藏堂のご開帳のほか、木彫りの



お地藏様の有料頒布、伝統文化の浦安の舞のご披露の他、多くの露店も出て賑わっています。

もともと、普段の正福寺は、東村山に講演に来た山田五郎氏が『日本一さりげない国宝』と書いたように気が付かない国宝と言っているお寺です。なお、正福寺の周辺は東村山市の北西部にあたりますが、この一帯は、トトロのふるさとと言われている八国山や、しよぶで有名な北山公園（六月には菖蒲まつりも開催されます）、多摩湖の堤防、新田義貞公の板碑のある徳蔵寺など、小さな観光スポットが点在しています。この地方独特の武蔵野うどんと呼ばれるコシの強いうどんを食べられるお店も何店かありますので、お散歩気分でお出かけされてみては如何でしょうか？トトロに会えるかもしくはクビシンに会いました。）

紺野（琢）

東村山市立第二中学校 職場体験学習

二月八日、九日の2日間、東村山市立第二中学校の職場体験学習があり、当組合では、三栄サービス、日興紙業商事、ケイシン、JP資源の四社が協力した。

各社の朝礼に参加した後、トラックに同乗して古紙回収や、ヤード内にて選別作業などを体験してもらった。古紙が、どのように回収され、選別加工され、どこに運ばれるのかを体験学習して頂いた。又、組合会議室にて、リサイクルの勉強会を行った。生徒の皆さんには色々な知識を学んでいただき、職場体験学習を終了した。

職場体験学習は、生徒の皆さんに学んで頂くだけでなく、我々も初



心に帰って、リサイクルの再確認ができ、新たな発見があった。これからも、できる限り多くの市民の皆様と交流をもつて、社会貢献をしていきたいと思えます。

学生さんの感想

拝啓 立春は過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きます。紺野様にはお変わりなくおすごしのことと思います。さて先日はお忙しい中、働三栄サービスの仕事についてご指導をいただき、本当にありがとうございました。

1、  
ぼくは、1日目 鈴木様にトラックの回収中色々教えていただきました。その中でぼくは、運転免許は取ったので大人になったら仕事をするために取ろうと思えました。勉強会では禁忌品と資源物を教えていただきましたとても勉強になりました。紺野様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。最後にありがとうございましたが改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

2、  
さて先日は、お忙しい中三栄サービスの仕事についてご指導いただき本当にありがとうございます。よかったです。何より三栄サービスを職場体験の場に来たことです。この二日間ではぼくは、リサイクルについてたくさんを学び、特に

一日目のリサイクルの勉強は、今まで知らなかった、ごみの常識について、学ぶことができ、とてもためになりました。ぼくは水野さんが最後におっしゃっていた「協力が大事」という言葉を忘れず、今後もがんばっていききたいと思います。

3、ぼくは、リサイクルのことをよくしらなかつたけどこの三栄サービスの職場体験で、こうゆうのはダメなんだなどがしつかりしることができ、リサイクルのことがよくわかったのですごくよかったです。

4、ぼくは、資源回収をやってみて、すごく大変な仕事だと思いました。特に、萩山までいくのにつかれるし、一回で終らなかつたらもう一回行くのでそれですごくつかれるから、すごく大変でした。それを毎日やるのがすごいと思いました。仕事だし、あたりまえとも思っても僕はすごいと思いました。働いてる人も、面白い人がたくさんいて、ただトラックに乗ってるだけなのにすごく楽しかったです。また機会があったら一緒に仕事をしたいです。

5、職場体験はインフルエンザがクラス内で流行して、学級閉鎖になったため行くことができませんでした。本当に残念です。またの機会があればうれしいです。

### 第十回青年部総会

去る平成二十四年四月二十七日午後六時より、東多摩再資源化事業協同組合青年部第十回総会が、小平市・花小金井の「隠れ家 旬菜ダイニング ささ花 花小金井店」で開催された。

司会の水野青年部幹事の開会の辞に続き、福田青年部長の挨拶があり、議事に入った。

議事では、平成二十三年度の活動・決算報告、平成二十四年度活動・会計方針案が、満場一致で承認された他、役員改選では、現役員の留任が満場一致で承認された。

また、この総会では、①組合が携わっている現場で作業している若い人材の意見と活力により、組合の業務の活性化を図る、②本年度は、組合青年部設立十周年であるため、記念事業（記念式典やセミナー等の開催）に取り組んで行く事等、青年部の新たな活動が認められた。

議事終了後、組合からの来賓の紹介と、来賓を代表して紺野理事長が挨拶され、司会よりの閉会の辞をもって、青年部総会は無事終了した。

### 組合ホームページを

### リニューアルしました！

この度、当組合では、ホームページを、皆様により親しんで頂けるように、リニューアルさせて頂きました。

トップページには、当組合の概略の他、当組合で取得・活用しているマーク（シンボルマーク、メビウスの輪、エコアクション21、官公需適格組合、AED（自動体外式除細動器）の紹介とそれぞれの概説、地元各市や外部団体のイベント情報の紹介を掲載しています。

また、近年横行している資源物の持ち去り問題についても、各市の条例や、当組合の持ち去り対策活動について紹介しています。

組合事業のコーナーでは、当組合が携わっている資源回収・選別処理事業や、集団回収事業、広報活動、青年部の活動等を、事業・活動ごとに、分り易く掲載させて頂いています。

さらに、組合機関紙「ヴィーナス通信」のバックナンバーのコーナーでは、実際に機関紙を手にとって購読することが出来なかつた

方のために、創刊号から最新号まで、速やかにかつ確実に精読することが出来るように完備しています。

この他にも、当組合へのお問合せコーナー（当組合のEメールにリンクしています。）や、地元行政・関連団体等のホームページへのリンクなど、全体的に充実した内容となっておりますので、皆様のたくさんのアクセスをお待ちしています。



吉浦専務理事(当誌編集長)  
東資協理事長に就任!

東京都資源回収事業協同組合は、五月十九日の通常総会において、吉浦高志氏を第一七代理事長に任命致しました。一層のご活躍をお祈り申し上げます。  
事務局

行事・行動

【二月】

- 三日：財務委員会
- 四日：新年賀詞交歓会
- 六日：福利厚生委員会
- 八日：東資協・理事会
- 一〇日：定例理事会
- 一四日：小平C責任者会議
- 一八日：(社)東リ協会・理事会
- ・日資連・SK委員会
- 二一日：関東商組シンポジウム
- 二三日：財務委員会
- 二四日：古紙C業務委員会

- 二七日：西東京市・廃棄物減量審
- 二九日：役員選考委員会
- ・東久留米市行政回収会議

【三月】

- 八日：東資協・理事会
- 九日：古紙持去問題意見交換会
- 一〇日：RC安全研修会
- 一二日：定例理事会
- 一四日：小平C責任者会議
- 一五日：財務委員会
- 一六日：古紙C理事会・業務委
- 一七日：日資連・理事会
- 二一日：(社)東リ協会・理事会

【四月】

- 九日：西東京市集団回収懇談会
- 一〇日：RC忘年慰安会
- 一一日：定例理事会
- 一六日：小平C責任者会議
- 一八日：広報委員会
- 二二日：立川市・ヒアリング
- 二九日：古紙C古紙回収特別委
- 三〇日：研修旅行(大和板紙他)
- 九日：東資協・理事会
- 一〇日：RC忘年慰安会
- 一一日：定例理事会
- 一六日：小平C責任者会議
- 一八日：広報委員会

- 二一日：日資連・理事会
- 二三日：総務委員会
- 二四日：中央会・役員会
- 二五日：(社)東リ協会・理事会
- 二六日：古紙C・業務委員会
- 二七日：青年部・総会
- 二日：財務委員会
- 八日：東資協・理事会
- 会計監査
- 一〇日：広報委員会
- 一一日：定例理事会
- 一二日：日資連・総会
- 一四日：小平C責任者会議
- 一八日：通常総会
- 一九日：東資協・総会
- 二〇日：清瀬市・環境フェア
- 二二日：古紙持去問題意見交換会
- 二三日：(社)東リ協会・理事会

編集後記

特別御寄稿文下さいました杉山様大変ありがとうございます。紺野理事長の闘いぶりを評価して頂き感謝いたします。

株式会社大和板紙の研修は、大変興味深く見学致しました。北村会長自ら先頭に立って、マイクが要らない様な大きな声で案内され、原料、生産設備、廃棄物リサイクル、製品の素晴らしさなどを強調して説明されました。古紙原料は禁忌品の部類に入る難古紙を主体に使用していて機密書類も大量に扱っていました。大阪市が焼却場に持ち込まれる紙ゴミを受け入れなくなるので、これから古紙原料が余剰になるらしいです。

社員の皆様はとても明るく礼儀正しいのには感心しました。創業以来、人員整理をした事が無く定年後も働く社員がかなりおられ、会長のもとで働くことが楽しいのだと話していました。

清瀬市に古紙持ち去り条例が施行された。持ち去り古紙問題で悩んでいる、飯能市、入間市、所沢市、狭山市のリサイクル担当の方々が組合の取り組みを聞きに来られた。まだまだ悩み多いが難問の解決も少しずつだが前進している。挫けずに解決に向かってガンバロウ。

吉浦